

本年度の学校評価の重点目標

重点目標		(1) 「課題探究」を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。 (2) 新教育課程の検討を進めるとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。 (3) 教育活動全体を通じて、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する。 (4) 強く靱やかな学力を育てるとともに、多様な学びを記録する方法を確立する。 (5) 教育活動の見直しや業務の精選を図り、教職員の多忙化の解消に努める。	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	留意事項
教務	業務の改善と一層の効率化とを目指すと共に、新教育課程の編成を円滑に進める。	<ul style="list-style-type: none"> ・部内の業務内容について改善できる点を検討する。また、発信する情報をわかりやすく伝えることや、業務のマニュアル等を作成することで、部内だけでなく校内全体の業務の効率性を高める。 ・カリキュラム委員会、教科主任会を通じた協議を行い、新学習指導要領の趣旨を踏まえながら、本校の学校目標に沿った教育課程の編成を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発信する情報にはわかりやすい表現を用いるよう留意するとともに、その要点や目的を明確にする。 ・成績関係書類等の管理・保管状況の一層の向上に努める。 ・各教科会との連携に努める。
総務	給付型奨学金が多種多様化し、対象学年も広がる傾向にある状況に対し、学校全体で協力して手続きの指導ができる体制を確立する。	他分掌や各学年会と連携を取り、必要な情報を適確に生徒に伝えるようにする。また、学年会の中の生徒情報等を担当者で共有し、奨学金に関する指導に活かされるようにする。	給付型奨学金の受けられる条件、貸与型奨学金に応募する際に注意する点等を生徒にも理解させ、的確な判断に基づき正確に手続きすることができるように指導する。
生徒指導	「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動（挨拶、身だしなみ、言葉遣い）や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 ・情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 ・生活指導強調週間で生徒の参加を募り、生徒主体の活動になるように企画し、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年と生徒情報を共有しながら、協力して対応する。 ・全体集会時に情報モラルに関する講話を取り入れる。関係機関が作成した資料も活用していく。 ・初めての試みであるが、委員の活動ではなく、有志を募っての生徒参加形式で実施する。
進路	高大接続改革の実施にあたり、職員間で共通認識をもち、学校全体で、組織的に継続性のある進路指導を展開する。	<ul style="list-style-type: none"> ・実力考査のデータの有効活用を図るため、実力考査の実施について引き続き調査し、実力考査の改善案を提示する。 ・キャリア教育の充実に向けて、各種ガイダンスを改善し、1、2年生における進路意識の高揚を図る。 ・各学年で行われる進路情報交換会の内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 ・高大接続改革に対応して、ポートフォリオの一層の活用を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題考査、実力考査のあり方を引き続き検証する。 ・「進路通信」やHPを通じて、各種ガイダンスの周知を図るとともに、参加しやすい環境の整備を学年会と協力して進める。 ・組織的で継続的な進路指導ができるよう、データを整理分析し、適宜学年へ提供する。 ・高大接続改革に関する情報を把握し、学年会や各教科に伝え、適切な学習指導、進路指導に資する。
保健相談	快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進をはかる。	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化について考える姿勢を育成する。 ・学年との情報交換を密にすることにより、早期に連携して生徒対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保健委員会、安全委員会を通じて、清掃や安全点検活動を充実させる。 ・部会とともに週1回の相談会議を通して、生徒情報を共有し、対応を協議する。
生徒会	自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動する。	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事のもつ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行事は生徒会だけではなく全校生徒が関係し運営していると意識させ、相互に感謝の気持ちをもてるようにする。 ・特に反省会に時間がかかりすぎる点を改善させたい。その際、次年度への改善案の作成や次期委員長への引継ぎが疎かにならないようにする。 ・被災地関連の企画によって、社会の人々が様々な活動で結びつき、助け合っているということに気づかせる。
図書情報	・生徒および教員の図書館利用を活性化する。	・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、「図書館報」「ほいさっさ」などの	・一昨年から始まった課題探究の授業が図書館で行われることが多くなった。

	・教員用パソコンの更新に対して円滑な対応を図る。	内容を充実させる。 ・部屋ごとのプリンタの設定、申請書に基づくソフトのインストールを行う。	本の貸出冊数増加のため、更に各教科と連絡を密にしていきたい。 ・タブレットの利用について研究していく。
研究開発	各学校設定科目やSSH事業と課題研究との結びつきを強化し、課題研究によって得られた研究成果の発表の場を充実させる。	生徒が課題研究を円滑に進めていくために、各学校設定科目やSSH事業において、研究に対するスキルが身に付くような指導体制や評価法を構築する。また、課題研究の研究成果を発表する場を、国内外を含めて開発していく。	学校設定科目やSSH事業が、どのように課題研究に結びついているかを生徒に明確に示すことで、学校設定科目やSSH事業で身に付いた力を、将来的に活用できるように指導する。
音楽	品格のある音楽科生徒を育てる。	・言葉遣い、立ち居振る舞い、美しい姿勢、挨拶、生活マナー、演奏マナー、常識をわきまえる、他者を思いやるなど、各自に目標をもたせて努力させる。 ・専攻実技と教科の学習の両立を計画的にこなせるように指導する。 ・自分と向き合う強さをもたせる。	・自分を取りまく環境や、気持ちの持ち方が、美しい音楽や豊かな表現に結びつくことを自覚させるような指導を心がける。 ・3年生で専攻実技に、より多くの時間をかけられるように、1,2年生では一般教科の基礎をしっかり作っておきたい。
1年	基本的な生活習慣を整えるとともに、授業を大切に、何事にも挑戦して主体的に取り組む中で、リーダーとして社会に貢献できる生徒を育てる。	・時間を守る、授業を大切に学習姿勢、部活動や行事、清掃などに積極的に取り組むといった姿勢を身に付けさせる。 ・自主自律を大切にしながら、集団生活において大切な他者への思いやり、気づきの心をもたせる。	・何事にも主体的に取り組むことができるよう指導する。 ・生徒の変化に気づき、その情報を学年会で共有する。必要に応じて分掌とも連携し、支援を行う。
2年	・学校の中核を成す学年としての自覚をもち、何事にも主体的・積極的・協力的に取り組ませる。 ・自己の将来について真摯に考えるとともに、進路実現に向けて高い目標を掲げ、計画的に学習に取り組ませる。	・学習と特別活動の切り替えを常に意識させ、時間を有効に使えるよう指導する。 ・基本的な生活習慣を整え、あらゆる機会や活動を通して公共心や協調性を身に付けられるよう指導する。 ・類型登録に向けて、自己の進路について更に高い意識をもてるよう指導しつつ、幅広くさまざまな分野を学習することの意義を理解させ、授業への誠実な取り組みを最後まで継続させる。	生徒についての情報を学年団で共有し、生徒が心身のバランスのとれた学校生活を送ることができるよう、多方面からの支援を行う。
3年	・最高学年の生徒として、学校生活の全ての場面で下級生の模範となり、さらには社会に貢献できる人物に成長するよう指導する。 ・生徒各自が自己の進路目標について主体的に考え、実現に向けて計画的に取り組むことができるよう援助する。	・高校生という立場をわきまえて、場面に応じた適切な行動をとることができるよう指導する。 ・進路目標・学習状況に関する情報を学年会で共有し、本校生徒の特性を考慮した適切な進路指導・学習指導をする。	・部活動・学校行事にも、最後まで全力で取り組むことができるよう指導する。 ・学校生活への適応について不安を抱える生徒の情報を、学年会・保健相談部で共有し、適切な援助をする。
いじめ防止基本方針に基づく取組	いじめの未然防止、早期発見を図る。	生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」の他、個人面談、健康観察等を実施する。	教育相談・特別支援教育委員会を中心に、生徒の悩み等の把握が迅速に行われるようにする。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止の実施状況	在校時間が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の開錠時間及び最終施錠時間を適切に設定し、合理的な働き方の工夫を推進する。 ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底し実施する。 ・部活動総合指導員と関係顧問が連携し、土休日の職員の負担を軽減する。	・年度当初及び年度末の繁忙期を除き、時間が厳守されるように努める。また、長期休業中については別途適切な時間を設定する。 ・定時退校日の職員室の最終施錠時間は17:00とする。 ・部活動総合指導員のモデル事業校として、日常的に問題点や利点の整理を心がける。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		・新学習指導要領を視野に入れながら、SSH事業を中心に据えた学校全体でのカリキュラムマネジメントを推進し、教育課程を円滑に効果的に実施するために、職員間の連携や工夫ができたか。 ・学年や分掌や部活動等における業務改善の取組によって、多忙化解消を図ることができたか。	